



## 2014年度の全国信用金庫の預金・貸出金動向（速報）

企業向けが伸び率を高め貸出金は年度中2.1%増

井上 有弘

### ポイント

- 2014年度末の全267信用金庫の預金・貸出金の動向について、速報ベースの計数により概観する。預金は、年度中3.0%増と13年度の2.5%増より伸び率を高めた。貸出金は、同2.1%増と13年度の1.2%増より伸び率を高め、08年度の2.1%増以来の高い伸び率となった。預貸率は、貸出金の伸びを上回って預金が増えたことから、年度末には49.9%となった。
- 預金は、14年6月末に初めて130兆円台となり、15年1月以降は3%程度に伸び率(前年同月末比)を高めている。これは、約8割を占める個人預金の伸びが2%程度と引き続き堅調なほか、法人預金が5%程度の高い伸び率で推移している影響が大きい。
- 貸出金は、13年5月以降、前年同月末比でプラスに転じており、15年1月以降は同2%程度に伸び率を高めている。引き続き企業向け設備資金が大きく寄与しているほか、企業向け運転資金も増加に転じつつある。個人向け、地方公共団体向け貸出も増加を維持している。

※本稿の計数は、決算補正前の計数を含む速報ベースであるため、今後修正される可能性がある。

### 1. 2014年度の預金・貸出金動向

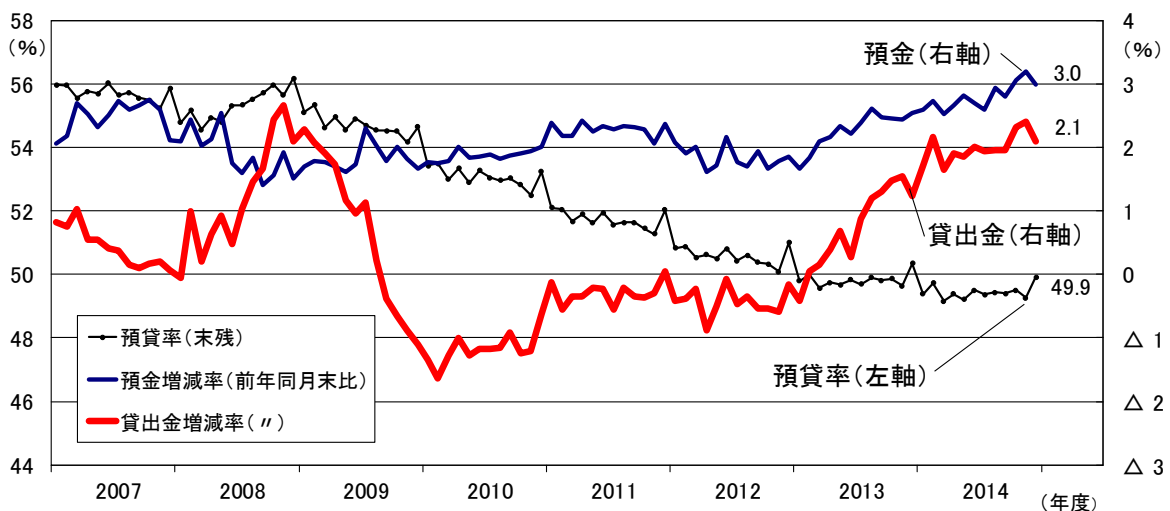
本稿では、現時点で把握可能な決算補正前の計数を含む速報ベースの計数により、2014年度の預金・貸出金動向を概観する(図表1)。

全国の信用金庫(全267金庫)の15年3月末の預金残高は、131兆9,415億円となった。預金は、14年6月末に初めて130兆円台となり、15年1月以降は3%程度に伸び率(前年同月末比)を高めている。年度ベースでは、14年度は

3.0%増となり、1994年度の4.1%増以来の高い伸び率となった。

貸出金の15年3月末残高は、65兆8,539億円となった。貸出金は、13年5月以降、前年同月末比でプラスに転じており、15年1月以降は同2%程度に伸び率を高めている。年度ベースでは、14年度は2.1%増となり、金融危機後に運転資金需要が急増した08年度の2.1%増以来の高い伸び率となった。

(図表1) 預金・貸出金(前年同月末比)および預貸率(末残)の動向



(備考) 信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

預貸率(貸出金/預金)は、14年度末には49.9%となった。預貸率は、貸出金の伸びによって下げ止まりつつあるものの、貸出金を上回る預金の伸びから、年度末では初めて50%を下回った。

## 2. 預金者別預金の動向

預金の増加要因をみるために、預金者別計数が把握できる15年2月末までについて、預金全体の伸び率を預金者別に寄与度分解する(図表2)。

15年2月末の預金者別残高(構成比)は、預金計132.4兆円に対して、個人預金が106.0兆円(80.0%)、法人預金が21.0兆円(15.9%)、公金預金が4.2兆円(3.1%)、金融機関預金が1.0兆円(0.8%)となっている。

預金全体の増減率に対する寄与度をみると、約8割を占める個人預金の伸びが2%程度と引き続き堅調なほか、法人預金が5%程度の高い伸び率で推移している影響が大きい。

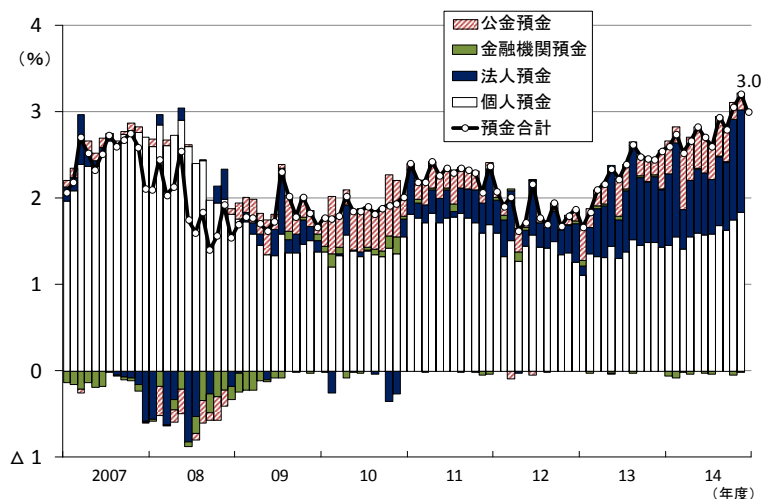
## 3. 貸出先別貸出金の動向

同様に、貸出先別計数が把握できる15年2月末までについて、貸出先別、さらに企業向けについては設備・運転資金別に、貸出金全体の伸び率を寄与度分解する(図表3)。

15年2月末の貸出先別残高(構成比)は、貸出金計65.2兆円に対して、個人向けが18.6兆円(28.6%)、地方公共団体向けが4.8兆円(7.4%)、企業向け設備資金が18.2兆円(27.9%)、同運転資金が23.4兆円(35.9%)となっている。

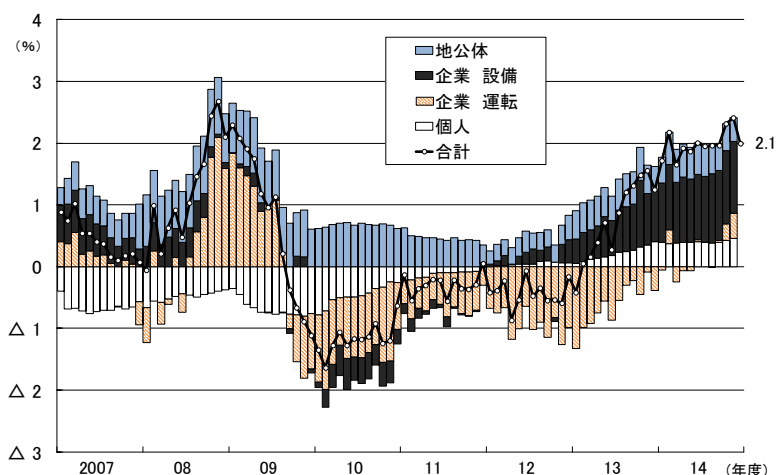
貸出金全体の増減率に対する寄与度をみると、企業向け貸出が寄与度を高めた影響が大きい。企業向けのうち設備資金は、さらに寄与度を高め、14年度に貸出金が伸び率を高めた主因といえる。また、企業向け運転資金は、08年度の金融危機後に急増、その後は返済によりマイナスに寄与していたが、13年度にマイナスの寄与度が縮小し、14年度末にかけては増加に転じつつある。住宅ローンを主体とした個人向け、地方公共団体向けも増加を維持している。

(図表2) 預金者別預金の動向(前年同月末比の寄与度)



(備考)日本銀行「預金・現金・貸出金調査表」より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(図表3) 貸出先別貸出金の動向(前年同月末比の寄与度)



(備考)図表2に同じ。

## 4. まとめ

14年度の信用金庫の預金・貸出金動向を振り返ると、預金は、約8割を占める個人預金の伸びが2%程度と引き続き堅調なほか、法人預金が伸び率を高めている。

貸出金は、企業向け設備資金がさらに寄与度を高め、運転資金も増加に転じつつある。個人向け、地方公共団体向けも増加を維持している。

14年度の信用金庫の預金・貸出金動向は、全国計でみると13年度以降の回復傾向を維持しているといえる。

以上